

## 復活節第4主日 (ヨハネ 10:1-10)

その人は、門を出入りして牧草を見つける



「はっきり言うておく。わたしは羊の門である（中略）。わたしを  
通って入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つけ  
る。」（10・7-9）2025年の聖年の扉が開かれ、すべての人が唯一の救  
いの門、イエスに招かれていると表明した「聖なる門」の開門式のこと  
を思い出します。実際にバチカンの儀式を直接見たわけではありません  
が、あとで公開された短い動画を今週の説教のために確認してみました。

教皇フランシスコは車椅子に座り、聖年のとき以外は開かないとさ  
れている扉に鍵を指して、扉が開くと教皇とご一行が聖ペトロ大聖堂の  
中に入っていかれました。約4ヶ月後に逝去するわけですから、最後の  
力を振り絞って、この儀式を執り行ったことが伺えます。天国に旅立つ  
瞬間まで、「わたしは羊の門である。わたしを通って入る者は救われ  
る」イエス様のこの招きを全身で表現しておられたのでしょう。早いも  
ので4月21日は、教皇フランシスコの一周忌でした。

私たちにとっていちばん身近な「羊の門」は、それぞれの教会の門  
です。「わたしを通って入る者は救われる。その人は、門を出入りして  
牧草を見つける」教会の門を出入りして、私たちは確実に牧草を見つけ  
ているのでしょうか。入ったけど出たっつきり、もう戻ってこなかったと  
か、出入りしているけれども牧草を見つけずに、よそで自分に都合の良  
いものを牧草としていたりしないのでしょうか。牧草を見つけるのは門を  
出入りする人であり、羊の囲いである教会の中にその牧草はあるので  
す。

実は門を出入りして牧草を見つけたくてもそれができない状況がい  
ろいろ耳に入ってきています。ある教会はミサの時間を大幅に変更しま  
した。「実情に合わせて」ということなのでしょうが、以前よりも参加  
できるようになる変更は歓迎しますが、それによって参加できない人が  
大勢出てくるとしたら、それは何のための変更だったのか、ということ  
になります。司祭のためだったのでしょうか。

あるいは、病気や体の不調のために、門を出入りできない人は日常  
的におられるでしょう。「羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるた  
め」（10・10参照）司祭たちは、評議会は、各々の委員会は、何がで  
きるのでしょうか。

教皇フランシスコが命がけで開いた聖年の扉、形としては閉年の儀  
式を終えましたが、幸いに今度はレオ14世が「聖フランシスコ年」（1  
月10日から来年の1月10日まで）が続けて発表され、偶然にも「フラ  
ンシスコつながり」で続けて恩恵に預かれます。恩恵に預かりたくても  
預かれない人がいることを忘れずにいることは、私たちの大切な使命で  
はないのでしょうか。

私たちは一人ひとり、羊飼いに門を開く門番のように、「この門を

出入りする人は牧草を見つけます」といつでも言える人でなければなりません。

この前私が井持浦教会にミサに行ったとき、一人の信徒から「教会の中で静かに祈るため、なにか良い方法を見つけてください」とお願いされました。定期的に教会に来てお祈りするその人は、たまたまではなく高い確率で、井持浦教会の聖堂内で教会案内をするガイドの声に静けさを妨げられるのだそうです。その瞬間に、「飛んで火に入る夏の虫」というのでしょうか、観光の一行とガイドの人が入って来て、教会の説明をしようとしたのです。

私は瞬間的にこう考え、ガイドの人をお願いしました。「この聖堂内は祈りの場所ですから、ガイドさんの説明は聖堂に入るまでに終わるようにしていただけないませんか？あなたがた五島市のガイドの取りまとめをしているKさんにも、そのように申し入れします。早速今日からお願いします」と言って、いったん観光者一行とガイドの人を外に戻しました。

これから井持浦教会だけでなく、すべての教会で、説明は教会に入る前に終わらせて、それから聖堂に入ってもらおうようにすることで、祈りをしたい信徒と「共生」できるのではないかと思います。信徒が教会の門を出入りして牧草を見つけるのを、司祭は全力で守ってあげないといけない。その時に義憤にも似た感情に駆られました。

それにしても私たちは、門を出入りして牧草を見つけているでしょうか。みなさんはミサに来るたびにお賽銭をささげています。100円か200円か知りませんが、そのお賽銭をささげても惜しくないと言えるような牧草を、教会の門を出入りすることで見つけられているでしょうか。

毎日、毎週私がまさに必要としていたものが得られているかは分かりませんが、イエスは羊飼いととして、私たち一人ひとりに牧草を見つけるために導いてくださっています。信徒には信徒の、修道者には修道者の、司祭には司祭の、必要な牧草があります。ほかの者の声や、強盗に惑わされず、羊飼いの声を聞き分けて、今週も必要な牧草を見つけることができますように。引き続きミサの中で願っていきましょう。

復活節第5主日(ヨハネ 14:1-12)